

# MINORU NEWS

東村山市議会議員 渡辺みのる活動報告



## 小規模だからこそできる豊かな教育を

現在東村山市では、小中学校の統廃合計画が進められています。現在22校ある小学校を14校(小学校7校、中学校2校、小中学校5校)が「適正な配置」とする内容です。

市は、学校が小規模化することが子どもにとってデメリットしかないような説明をしていますが、本当に小規模学校はダメなんですか。

委員会)ことも示されています。

子ども一人ひとりを尊重し、豊かな教育を実現するためには小規模な学校の方が効果的ではないでしょうか。

### 小規模校のデメリットとは

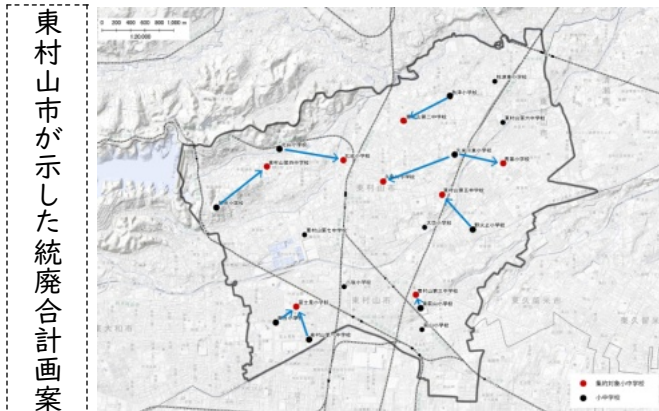
市や文科省は、小規模校のデメリットとして、クラス替えができなくなることや、くらす同士が切磋琢磨できないこと、人間関係が固定化することなどをあげています。

しかし、私が調べた範囲では、挙げられている問題を検証し、そのことが子どもの成長にとってどのような影響があるかを分析した資料は見つけれませんでした。

### 教育の視点で考えて

小規模の学校が子どもにとってどうなのかは、教育の視点で考えることも必要です。また、統廃合することによる子どものメンタルへの影響も心配されます。

子どもたちがのびのびと学び成長できる学校はどのようなものなのか。みなさんと一緒に考えていきたいです。



東村山市が示した統廃合計画案

### 一人ひとりを尊重できる

9月定例会で質問するにあたって、「小規模学校が子どもに与える影響」について調べられる範囲で調べました。すると、小規模の学校だからこそできることがあることもわかってきました。

- ・子ども一人ひとりに寄り添った教育が可能
- ・子どもたちのつながりが強くなる
- ・教職員の連携がとりやすい

などと言ったメリットが挙げられます。

また、1クラスの人数が少ないことにより、「学習面・生活面において顕著な効果がある」(東京都教育

ホームページを開設しました！  
<https://watanabe.jcp-higashimurayama.net/>



YouTubeやっています！→  
チャンネル登録もお願いします！



## 子ども(小中学生)の医療費助成 所得制限撤廃

市議会に子ども(小中学生)の医療費助成制度における所得制限を撤廃するための条例が提案されています。

東京都が、18歳までの医療費助成制度を作っから、子どもの医療費助成制度の所得制限に対して、改めて注目が集まっていました。

23区や多摩地域の一部の自治体では、18歳までのすべての子どもの医療費助成を所得制限なしで実施しており、東村山でも所得制限の撤廃を求める声が広がっていました。

今回、15歳までの小中学生の子どもに対する医療費助成制度の所得制限が撤廃されることは、大きな前進だと思います。

しかし、200円の窓口負担や16~18歳の子どもの所得制限は残ったままです。

どこに住んでいても同じ基準でサービスが受けられるように、これからも当事者のみなさんと力を合わせて取り組んでいきます。



Twitter



Facebook



＼困ったときは共産党に相談を／

生活保護は権利です。

年金が少ない、物価が上がって生活が大変など、暮らしのお困りごとがありましたらいつでもご相談ください。

年金や仕事、持ち家があっても生活保護を利用することはできます。

市役所に相談に行く際の同行も行っています。

お気軽にお電話ください。

渡辺みのるTEL:070-2177-7629

### ■東村山市議団法律相談

場所：東村山市役所 日本共産党控室

日時：毎月第1水曜日(月により変更有)

※要予約のため、渡辺までご連絡ください。

### ■しんぶん赤旗をお読み下さい！

日刊紙 月額3,497円

日曜版 月額 930円

お申込み、お問い合わせは

渡辺みのるにご連絡ください。

携帯番号：070-2177-7629

### ～渡辺みのる子育て日誌～

2学期に入って、次女が複数回「学校に行きたくない」と訴えた。「嫌なら行かなくてもいいが、理由を教えて」と問いかけると、アトピーやアレルギーのことを同級生に言われる(聞かれる)ことが嫌だという。

同じ給食を食べられない、顔や手足に描き傷があるなど、他の子と違うところがあることに知識がなく、疑問を口に出してしまうのだろう。

学校に話したところ「指導する」と言っていたが、「ダメ」ということだけでなく、当事者の大変さや気持ちを想像し、子どもたちがきちんと理解できるように指導してもらいたい。

勉強よりももっと大切なことを教えることのできる学校であってほしい。